

評価・改善部会議事要旨

開催日時；平成 28 年 7 月 25 日（月） 15：00～17：10

開催場所；秋田大学医学部附属病院 大会議室

出席者；別紙名簿のとおり

開催にあたり、本山部会長より資料の説明及び第 2 期秋田県がん対策推進計画の目標に対する進捗状況について説明があった。また、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会・がん登録部会の QI 研究及び、国立がん研究センターが実施した患者体験調査について説明があり、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会からのアンケート調査に対し、秋田県における課題として「放射線療法（高精度放射線治療）」、「緩和ケア（在宅がん医療体制）」を記載・提出したこと、全国的にも「放射線治療の体制」、「化学療法における連携強化」、「拠点病院における人材育成」などのテーマが取り上げられたことの説明があった。

次に、参加各施設より、当部会において実施した 2 回目のアンケート調査結果に基づいて①がん診療に対する大きな課題、②その解決策、③自施設の先進的な取り組み、④第 3 期秋田県がん対策推進計画に盛り込むべき秋田県全体の共通目標は何かについて説明があった。また、大きな課題としては、放射線治療について 6 施設、病理診断について 3 施設、在宅がん医療については 1 施設より記載があったこと、秋田県の課題としてがん検診受診率やがん治療成績の向上などであったことの説明があった。

放射線治療について、欧米に比べて日本では治療件数が少なく、患者の高齢化が進むにつれて低侵襲である放射線治療のニーズが増えてくるが、放射線治療に携わる医師が少ないという問題について、現在秋田県内では数名の放射線治療を希望する医師がいるが、自治医科大学出身医師は放射線治療医としての進路を希望しても 9 年間の義務年限終了後しかその進路を選択することが出来ない制度があるので、柔軟な対応を秋田県に要望することの可否について情報交換があった。

在宅緩和医療について、安藤委員より、在宅緩和医療にかかる勉強会は県内各地域で実施されており、各地域の実施項目を集計・集約し協議会として把握することは可能であり、必要であれば実施したいとの意見があり、協議会に提案することとなった。

本山部会長より、国立がん研究センターの施設別 5 大がん 5 年相対生存率（2008 年症例）の公表について、院内がん登録の予後判明率が 90%以上、部位別症例が 50 例以上の場合に今年度中に生存率の公表が決定しているとの説明があった。また、高齢患者の割合が大きい場合や、ステージが進んでいる場合に生存率が不利になるため、秋田県においては独自に作成している施設別部位別病期別 5 年相対生存率を協議会ホームページに公表し、病期

別になっていない国立がん研究センターの公表値に対し説明できる体制が必要であるとの提案があった。秋田県施設別部位別病期別5年相対生存率を協議会ホームページに公表することに対して賛成する施設の挙手を求めたところ、大多数の9施設から賛同を得た。

第1回評価・改善部会では各施設の得意分野をホームページに掲載するべきとの意見があったことを受けて、2014年症例「施設別手術症例件数」（評価改善部会資料頁88）の協議会ホームページ掲載について提案があり、データ公表により特定の施設に患者が集中する不都合が生じないか、手術件数だけではなく資格を持った医師（専門医）が何人所属しているかなどのデータも重要であるとの意見があった。これに対し、専門医は種類が多く対応が難しいため今回は保留とすること、順番を表す着色は公表時には着色しないことの説明があり、採決の結果、委員の大多数が協議会ホームページへのデータ公表を協議会に諮るべきとの意見であった。また、公表を推し進めるべきとの意見が5施設、わからないが4施設、まだ時期が早いとの意見は0施設であり、この結果を協議会へ報告することとした。

協議会のホームページへ、患者さんがアクセスし易いような情報提供サイトを増設する提案について了承された。

秋田県統一ポスターの作成について、「がんで仕事を辞めるとすぐに宣言しないでください」などのポスターを作成する方向で協議会へ提案することとなった。

検診出口調査の実施について、検診は市町村が実施しており、ドック（市町村以外の実施）ではこれまで県医師会で調査していたが4月からは実施していないため、協議会において調査を行うことは有効との意見があり、実施方法などについて検討することとなった。

次回、第3回評価・改善部会の開催予定について、本山部会長より11月くらいに中央地区（秋田大学医学部附属病院）で実施したい。その次は県南地区、その次は県北地区で開催をお願いしたい。また、第3回部会の内容については、膵癌について市立秋田総合病院より、CT大腸検診について大曲厚生医療センターよりお願いしたい。平日と土日では土日が好都合との意見が多かったので土日を中心に日程を調整したいとの発言があった。

委員より、部会の意義に関して質問があり、部会で行うアンケートには目標と評価方法を入れて行くこととなった。また、今後は議題となる専門分野の職員よりオブザーバー参加して頂くことも検討して行くこととなった。

以上で、平成28年度第2回評価・改善部会が終了した。